

「ダイワ高格付米ドル債オープン（毎月分配型）」 のご投資家の皆様へ

拝啓 時下ご投資家の皆様にはますますご清祥のことと存じ上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、この度の東日本大震災で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、現在ご投資いただいております「ダイワ高格付米ドル債オープン（毎月分配型）」（平成十四年三月設定）は、平成二十四年三月二十七日をもって満期償還を迎えます。

当ファンドは、主としてダイワ高格付米ドル債マザーファンドの受益証券に投資することを通じて、米ドル建ての高格付けの公社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行なっております。為替については、米ドル建て資産の投資比率を一〇〇％に近づけることを基本として運用いたしました。設定当初のドル円レートは、米国経済への不透明感などからドル安傾向となる中で、平成十五年九月のG7では、為替レートの柔軟性が望ましいとの共同宣言が採択されたこともあり、ドル安が加速する局面もありました。平成十六年に入ると、徐々にインフレ懸念が高まってきたため、当局は金融引き締め政策へ転換し、政策金利は五・二五％へ達しました。平成十七年にかけて、ドル円レートも底入れし、平成十九年半ばまで上昇基調となりました。ところがその後、サブプライムローンの焦げ付き問題を発端に、金融機関に対する信用力の低下によって金融システムが機能不全に陥り、株式市場も大幅に下落するなど経済の先行き不安が高まり、金利は急低下しました。ドル円レートも再び下落基調となり、平成二十年には一ドル一〇〇円を割り込みました。

現在は、欧州では一部の高債務国の資金繰り問題と債務返済問題が表面化するなど、世界経済の不透明感が再び高まるなかで、米国金利は再度低下をたどっております。またこの間のドル円は、一時的にドル高円安方向へ反発する局面はありましたが長続きせず、米国経済のファンダメンタルズの不透明感などを背景に、ドル円高傾向が続いています。

この結果、平成二十三年九月十三日現在の基準価額は五、三六五円、設定当初からの分配金の合計額は三、七三〇円と、ご投資家の皆様のご期待に添うに至らず、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

基準価額は、市場動向などにより償還日までの間変動いたしますが、償還一カ月程度前を目処に、わが国の短期金融資産を中心とした安定運用に切り替えていくことを予定しており、その場合は債券・為替等の値動きによる基準価額の変動はほとんど無くなりますので、お含みおきくださいますようお願い申し上げます。

別添の「運用経過について」におきまして、簡単ではありますが、設定来の運用状況を取りまとめさせていただきますので、ご一読賜りますようお願い申し上げます。詳しい運用の内容につきましては、償還日以降運用報告書をご高覧賜る予定でございますが、以上取り急ぎご案内申し上げます。

当ファンドの償還金で他のファンドを購入される際に、募集・販売手数料が無料または割引きとなる場合がございます。詳しくはお取り引きいただいております取扱い証券会社の本・支店、営業所の窓口でお尋ねくださいますようお願い申し上げます。

今後の証券投資信託の運用につきましては、ご投資家の皆様のご期待に添えますよう万全を期して努力する所存でございますので、より一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成二十三年九月

大和証券投資信託委託株式会社

代表取締役社長 石橋俊朗